



2023年度 環境経営レポート

(対象期間:2023年10月～2024年9月)



発行日: 2025年1月8日
改訂日:

目次

- I. ごあいさつ … P.2
- II. 組織の概要 … P.3
- III. 認証・登録の対象範囲 … P.3
- IV. 主な環境負荷の実績 … P.4～6
- V. 環境経営目標及びその実績 … P.7～8
- VI. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容 … P.9～16
- VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果 … P.17
- VIII. 代表者による全体の評価と見直し … P.17
- IX. 環境活動の紹介 … P.18

I. ごあいさつ

クサカ建設株式会社は、昭和42年の設立以来、お客様の幅広いニーズにお答えする総合建設会社として、数多くの実績を積み重ね、地域社会の発展に全力を傾注してまいりました。全従業員が地球環境保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環境経営方針

当社は、本業である建築工事を通じて、地球環境保全の重要性を認識し、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。多種多様な現場において従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。(電気、ガソリン、灯油、都市ガス、軽油)
3. 廃棄物の削減を推進します。
4. 建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
5. 水道使用量の削減を推進します。
6. 環境に配慮した施工技術の開発と顧客への提案を推進します。
7. 環境経営の継続的改善を行い、環境経営のステップアップを実践します。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2015年6月15日

改定日：2023年9月30日

代表取締役社長

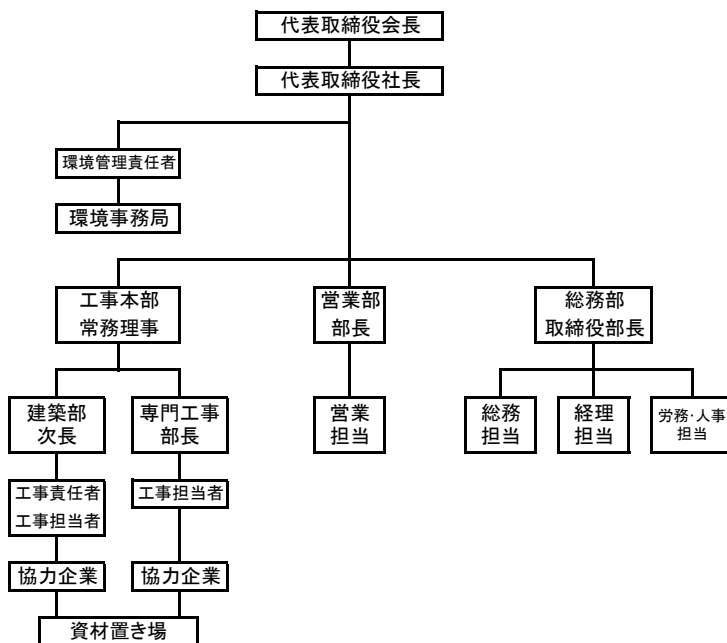
日下 雅人

II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
クサカ建設株式会社
代表取締役社長 日下 雅人
- (2) 所在地
本 社 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目30番5号
資材置き場 〒660-0076 兵庫県尼崎市大島3丁目27
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
環境管理責任者 営業部部长 増永 良一 TEL:06-6416-0181
担当者 総務部課長 池田 智恵 TEL:06-6417-8381 Email:kenchiku@kusaka-kk.co.jp
- (4) 事業内容
土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工事業、石工事業、屋根工事業、鋼構造物工事業
鉄筋工事業、舗装工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業
タイル・れんが・ブロック工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業
許可番号 兵庫県知事 許可(特-(許可年月日 令和4年5月30日) (許可期限 令和9年5月29日)
- (5) 事業規模
設立 昭和42年4月
資本金 6,000万円
年間工事完成高 1,802百万円 (2023年度)

事業所の規模	本社		資材置き場	合計
	従 業 員	17名	無人	17名
延べ床面積	288㎡	345.96㎡	633.96㎡	

(6) 組織



役割・責任・権限	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 代表者による全体の評価と見直しを実施 経営の課題とチャンスの整理、明確化 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境経営活動の実績集計 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 環境経営レポートの作成、発行
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施、環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
工事責任者	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場における環境経営システムの実施 工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 建設現場での問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

- (7) 事業年度 10月～翌年9月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名：クサカ建設株式会社
対象事業所：本社、資材置き場
活動：土木工事業、建築工事業、とび・土工事業、舗装工事業、解体工事業

IV. 主な環境負荷の実績

(1) 2023年度実績概要

2023年度から基準年度を2022年度として新たにスタートをいたしました。建築市場は2025年開催の大阪・関西博覧会に向けての建築工事が本格化した年になりました。会社の売上高は2022年度と比べると91%増の1,802百万円でした。

・全社の二酸化炭素の排出量としては43,071.2kg-CO₂と基準年度の前年比18.15%の増加で、目標値を上回りました。

・本社事務所の二酸化炭素排出量は22,038.6kg-CO₂と前年より増え、目標達成度は92%の結果となりました。建設現場における二酸化炭素排出量は21,032.6kg-CO₂で目標達成度は75%となり、目標は達成できませんでした。

・電力の使用がわが社の二酸化炭素排出量において一番大きなシェアを占めており約53.8%を占めています。その電力使用における事務所の比率は全社の38.6%、建築現場は全社の61.4%となっています。前年比では全社で11.17%増加、事務所は9.8%減少したものの、建築現場31.5%増加しています。

・ガソリンの使用が電力について二酸化炭素排出量の占める割合が大きいが、シェアは45.88%と昨年の42.7%より比率が上がっている。今年度は岡山、高砂など遠方の現場が多く、また、専門工事部門の現場数が多かったため昨年より増加しました。

・灯油、軽油の使用がありませんでした。

・都市ガスによる換算二酸化炭素排出量は139.7kg-CO₂で全社の0.3%です。現場事務所での都市ガスの使用はありませんでした。

・産業廃棄物は本年度201.3tと前年度より削減しております。ただ、建設工事の規模や工種により排出量は大幅に変動する為、数値目標を置くことが適当でない事から、適正管理をし実態の把握に努めていきます。一般廃棄物は前年比13.85%減少しています。一部、分別回収が進んだためと考えられます。

・本社事務所の総排水量は、常に節水意識があり現象傾向でしたが、前年度から△1m³と微減にとどまっています。建設現場の総排水量は前年比69.33%減少し目標達成度143%となりました。本年度は現場での杭工事が無かった為だと考えられますが、建設工事の規模や工種により排出量は大幅に変動します。

(2)2015年度～2023年度の実績

主な環境負荷の実績		単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (基準年 度)	2023年度	前年比
完工高		百万円	1,495	1,940	1,378	1,110	1,677	1,418	1,319	945	1,802	—
二酸化炭素 排出量	全社	kg-CO ₂	55,913.1	56,414.9	57,557.8	39,627.7	37,340.7	38,456.3	44,073.3	36,454.8	43,071.2	+18.15%
	事務所	kg-CO ₂	25,843.9	26,044.2	25,935.2	18,626.9	19,070.4	19,051.5	20,571.0	20,507.4	22,038.6	+7.47%
	建設現場	kg-CO ₂	30,069.1	30,370.6	31,622.6	21,000.8	18,270.3	19,404.8	23,502.3	15,947.4	21,032.6	+31.89%
電力	全社	kWh	47,531.0	58,889.0	62,547.0	45,234.0	47,147.0	50,164.0	61,379.0	53,280.0	60,460.0	+13.48%
	事務所	kWh	26,701.0	25,692.0	26,493.0	25,328.0	26,997.0	27,419.0	25,614.0	23,228.0	20,941.0	△9.32%
	建設現場	kWh	20,830.0	33,197.0	36,054.0	19,906.0	20,150.0	22,745.0	35,765.0	30,052.0	39,519.0	+31.50%
ガソリン	全社	L	13,070.7	11,012.0	10,204.9	8,414.8	7,337.3	7,117.8	7,548.4	6,710.7	8,518.5	+26.94%
	事務所	L	5,102.6	5,395.4	5,171.0	3,424.3	3,301.2	3,209.6	4,209.1	4,500.1	5,585.0	+24.11%
	建設現場	L	7,968.1	5,616.6	5,033.9	4,990.5	4,036.1	3,908.2	3,339.3	2,210.6	2,933.5	+32.70%
灯油	建設現場	L	94.0	0.0	432.0	72.6	0.0	18.0	108.0	0.0	0.0	0%
都市ガス	全社	m ³	130.0	53.0	68.0	56.0	105.0	283.0	56.0	65.0	61.0	△6.15%
	事務所	m ³	29.0	52.0	49.0	52.0	67.0	75.0	56.0	65.0	61.0	△6.15%
	建設現場	m ³	101.0	1.0	19.0	4.0	38.0	208.0	0.0	0.0	0.0	0%
軽油	建設現場	L	97.3	0.0	0.0	242.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0%
廃棄物排出量		t	581.8	3,297.4	14,713.2	700.8	17,438.0	386.5	2,477.6	255.4	202.2	△20.83%
一般廃棄物		t	1.43	1.34	1.18	1.16	0.98	1.10	1.06	1.06	0.91	△13.84%
産業廃棄物		t	580.4	3,296.1	14,712.0	699.6	17,437.0	385.4	534.3	254.4	201.3	△20.86%
総排水量	全社	m ³	1,052.0	1,958.0	1,120.0	443.0	3,252.0	1,180.0	902.0	902.0	689.0	△23.61%
	事務所	m ³	121.0	134.0	136.0	141.0	150.0	154.0	134.0	134.0	135.0	+0.75%
	建設現場	m ³	931.0	1,824.0	984.0	302.0	3,102.0	1,026.0	768.0	768.0	554.0	△27.86%

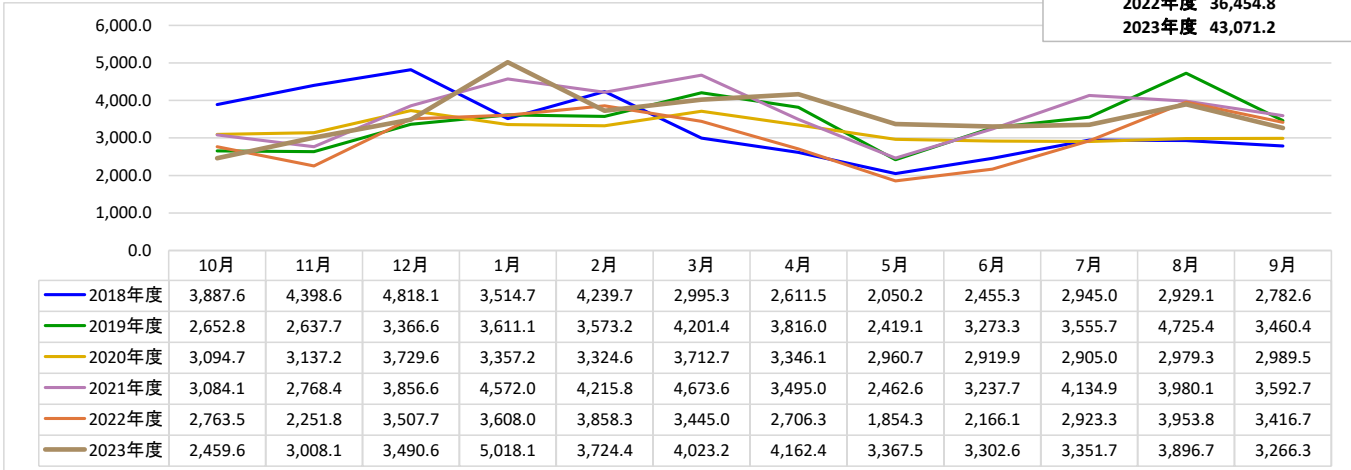
注) 化学物質は使用していない。

◇ 二酸化炭素排出量 2018年度～2023年度 比較 ◇

合計
 2018年度 39,627.7
 2019年度 41,292.8
 2020年度 38,456.3
 2021年度 44,073.4
 2022年度 36,454.8
 2023年度 43,071.2

全体

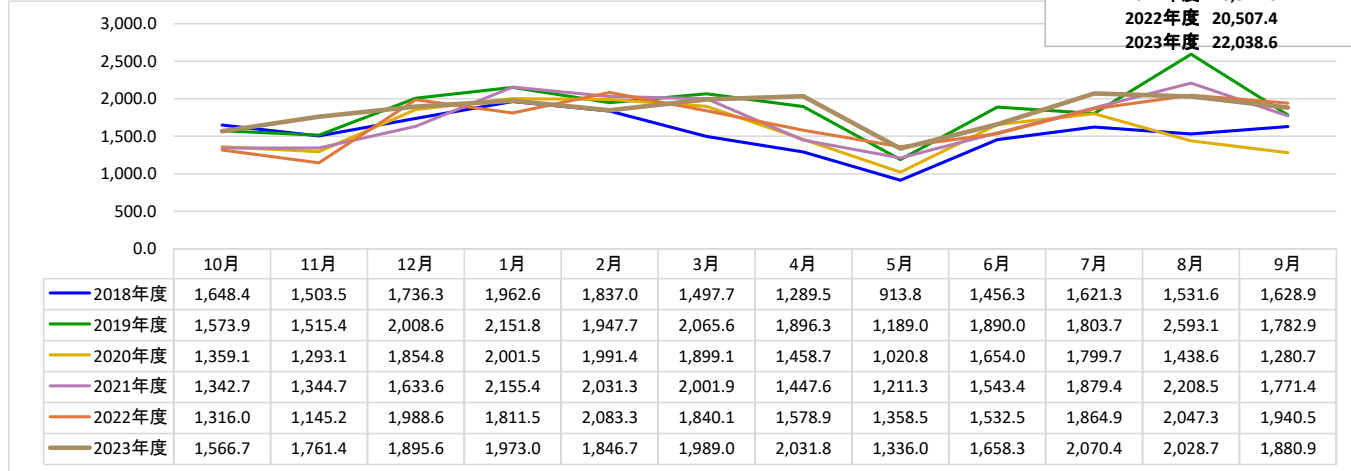
(単位: kg-CO2)



事務所

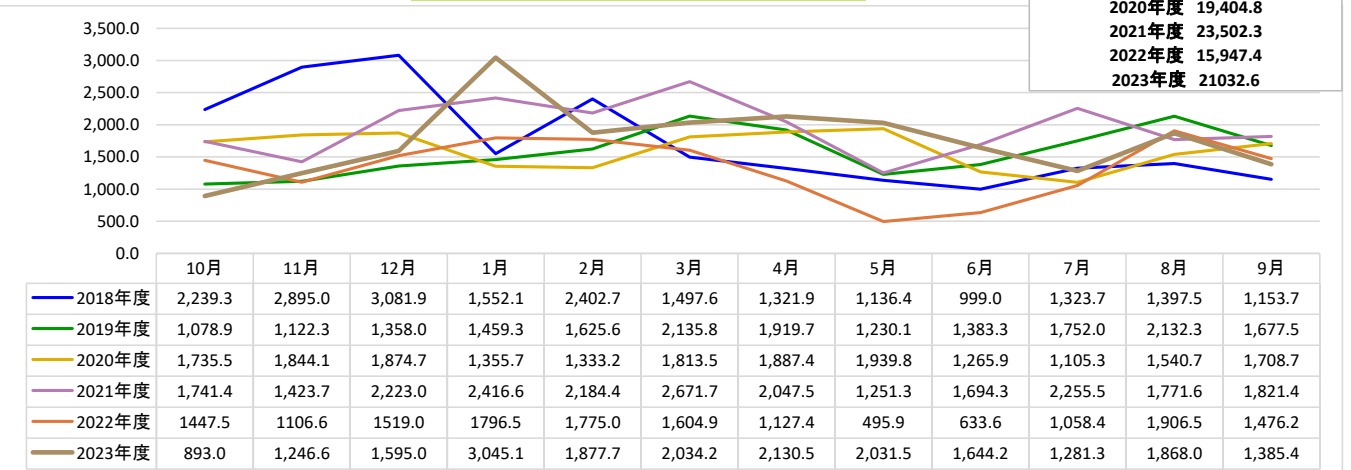
(単位: kg-CO2)

合計
 2018年度 18,626.9
 2019年度 22,418.0
 2020年度 19,051.5
 2021年度 20,571.0
 2022年度 20,507.4
 2023年度 22,038.6



建設現場

合計
 2018年度 21,000.8
 2019年度 18,874.8
 2020年度 19,404.8
 2021年度 23,502.3
 2022年度 15,947.4
 2023年度 21,032.6



V. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

項目	年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
		(基準年度)					
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準		36,454.9	36,090.4	35,725.8	35,361.3	34,996.7
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準		20,507.4	20,302.3	20,097.3	19,892.2	19,687.1
1)電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準		23,228.0 9,918.4	22,995.7 9,819.2	22,763.4 9,720.0	22,531.2 9,620.8	22,298.9 9,521.6
2)ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準		4,500.1 10,440.2	4,455.1 10,335.8	4,410.1 10,231.4	4,365.1 10,127.0	4,320.1 10,022.6
3)都市ガス 使用量削減	m ³ kg-CO ₂ 対基準		65.0 148.9	64.4 147.4	63.7 145.9	63.1 144.4	62.4 142.9
【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準		15,947.5	15,788.0	15,628.6	15,469.1	15,309.6
4)電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準		30,052.0 10,818.7	29,751.5 10,710.5	29,451.0 10,602.3	29,150.4 10,494.2	28,849.9 10,386.0
5)ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準		2,210.7 5,128.8	2,188.6 5,077.5	2,166.5 5,026.2	2,144.4 4,974.9	2,122.3 4,923.6
II. 廃棄物の削減							
1)一般廃棄物 削減	kg 対基準		1,057.0	1,046.4	1,035.9	1,025.3	1,014.7
2)産業廃棄物の適正管理							
①産業廃棄物 削減	t 対基準		254.4	実態把握及び適正管理			
②建設リサイクルの推進 向上	% 対基準		88.19	89.16	89.25	89.34	89.43
III. 再生資源の利用促進	m ³ 対基準		66.1	工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼			
IV. 水使用量 削減	m ³ 対基準		935.0	925.7	916.3	907.0	897.6
【事務所】 削減	m ³ 対基準		136.0	134.6	133.3	131.9	130.6
【建設現場】 削減	m ³ 対基準		799.0	791.0	783.0	775.0	767.0
V. 環境配慮工法の 開発と提案	件 対基準		0.0	積極的に提案を行う			

注) 電力の二酸化炭素排出係数: 事務所はKDDI(株)の0.427kg-CO₂/kWhを使用。

建設現場は関西電力(株)の0.360kg-CO₂/kWhを使用。

※排出係数はどちらも2023年度の調整後排出係数を使用。

注) 都市ガスの二酸化炭素排出係数は大阪ガス(株)(低圧)2.29kg-CO₂/m³を使用。

注) 化学物質は使用していない。

注) 建設現場の灯油、都市ガス、軽油は使用量が些少で使用しない年もある為、削減活動は行うが目標は設定しない。

(2)2023年度の実績

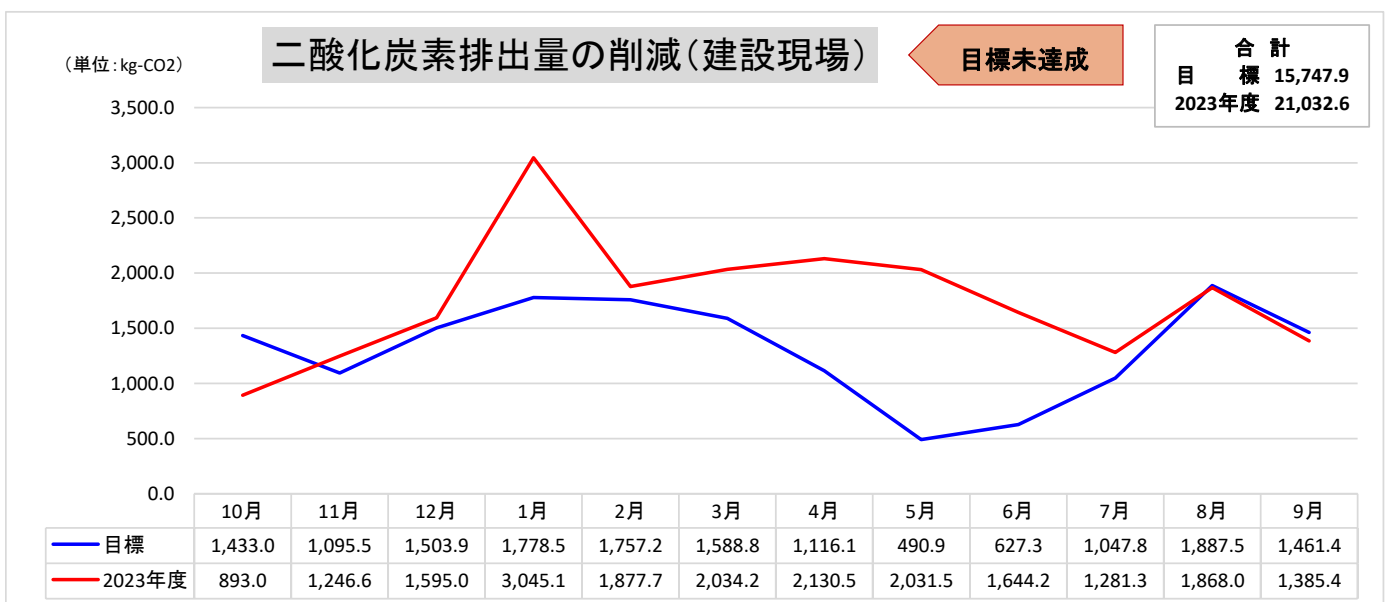
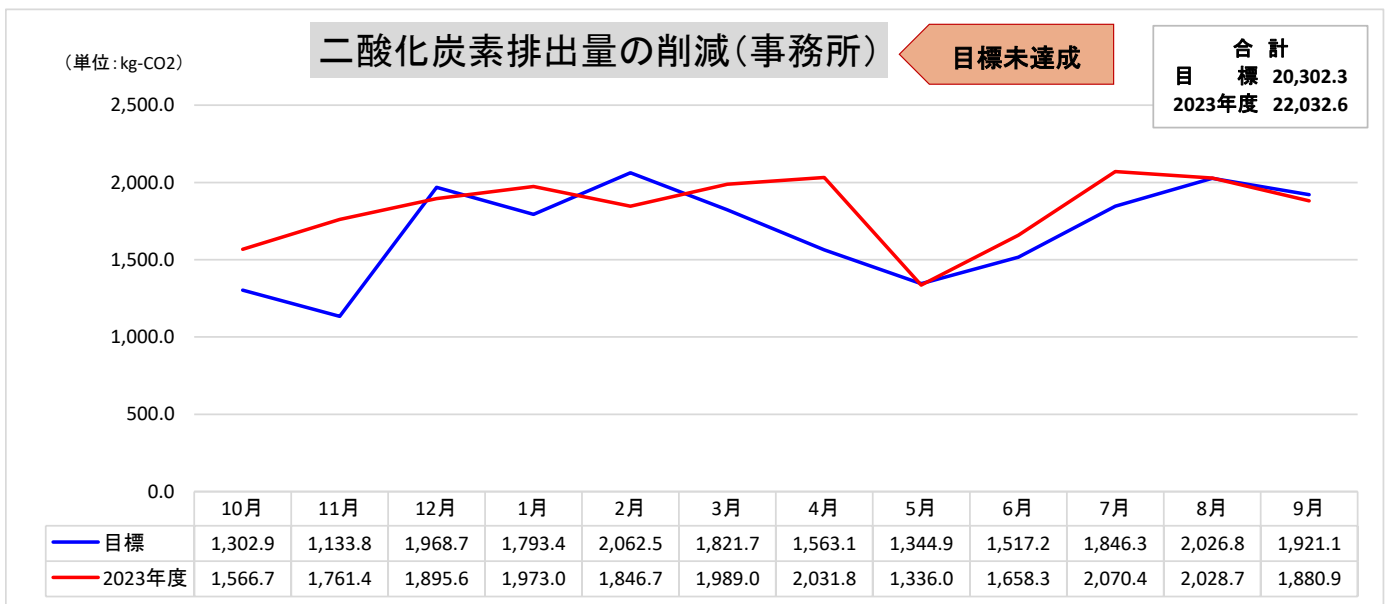
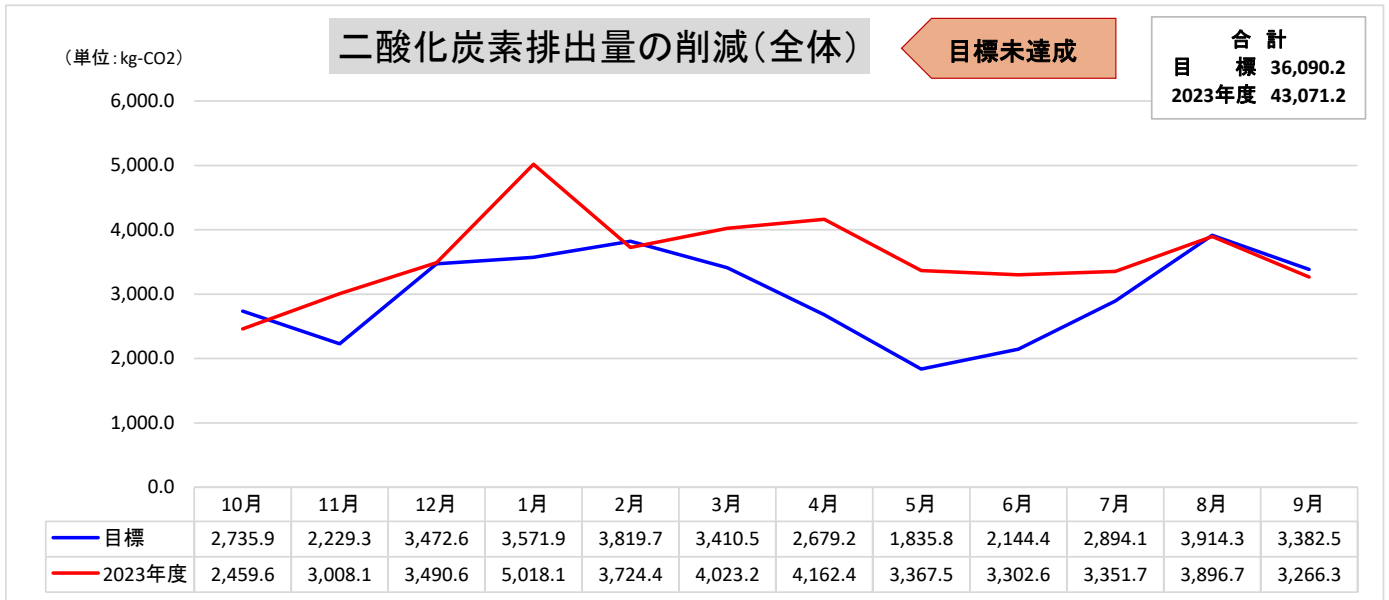
項目	年度	2023年度の実績 (2023年10月～2024年9月)				
		2022年度 基準値	目標	実績	達成度	評価
I.二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	36,454.9	36,090.4	43,071.2	84%	×
【事務所】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	20,507.4	20,302.3	22,038.6	92%	×
1)電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準	23,228.0 9,918.4	22,995.7 9,819.2	20,941.0 8,941.8	110%	○
2)ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	4,500.1 10,440.2	4,455.1 10,335.8	5,585.0 12,957.1	80%	×
3)都市ガス 使用量削減	m ³ kg-CO ₂ 対基準	65.0 148.9	64.4 147.4	61.0 139.7	105%	○
【建設現場】 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	15,947.5	15,788.0	21,032.6	75%	×
4)電力使用量 使用量削減	kWh kg-CO ₂ 対基準	30,052.0 10,818.7	29,751.5 10,710.5	39,519.0 14,226.8	75%	×
5)ガソリン 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	2,210.7 5,128.8	2,188.6 5,077.5	2,933.5 6,805.7	75%	×
6)灯油 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	0.0 0.0	実態把握 省エネ励行	0.0 0.0		○
7)都市ガス 使用量削減	Nm ³ kg-CO ₂ 対基準	0.0 0.0	実態把握 省エネ励行	0.0 0.0		○
8)軽油 使用量削減	L kg-CO ₂ 対基準	0.0 0.0	実態把握 省エネ励行	0.0 0.0		○
II.廃棄物の削減						
1)一般廃棄物 削減	kg 対基準	1,057.0	1,046.4	910.6	115%	○
2)産業廃棄物の適正管理						
①産業廃棄物 削減	t 対基準	254.4	実態把握 適正管理	201.3		○
②建設リサイクルの推進 向上	% 対基準	88.19	89.16 +1.1%	90.04 2%	101%	○
III.再生資源の利用促進	m ³ 対基準	50.3	利用を協力 業者へ依頼	22.5		○
IV.水使用量 削減	m ³ 対基準	935.0	925.7	689.0	134%	○
【事務所】 排出量削減	m ³ 対基準	136.0	134.6	135.0	100%	○
【建設現場】 排出量削減	m ³ 対基準	799.0	791.0	554.0	143%	○
V.環境配慮工法の 開発と提案	件 対基準	0.0	積極的に 提案を行う			○

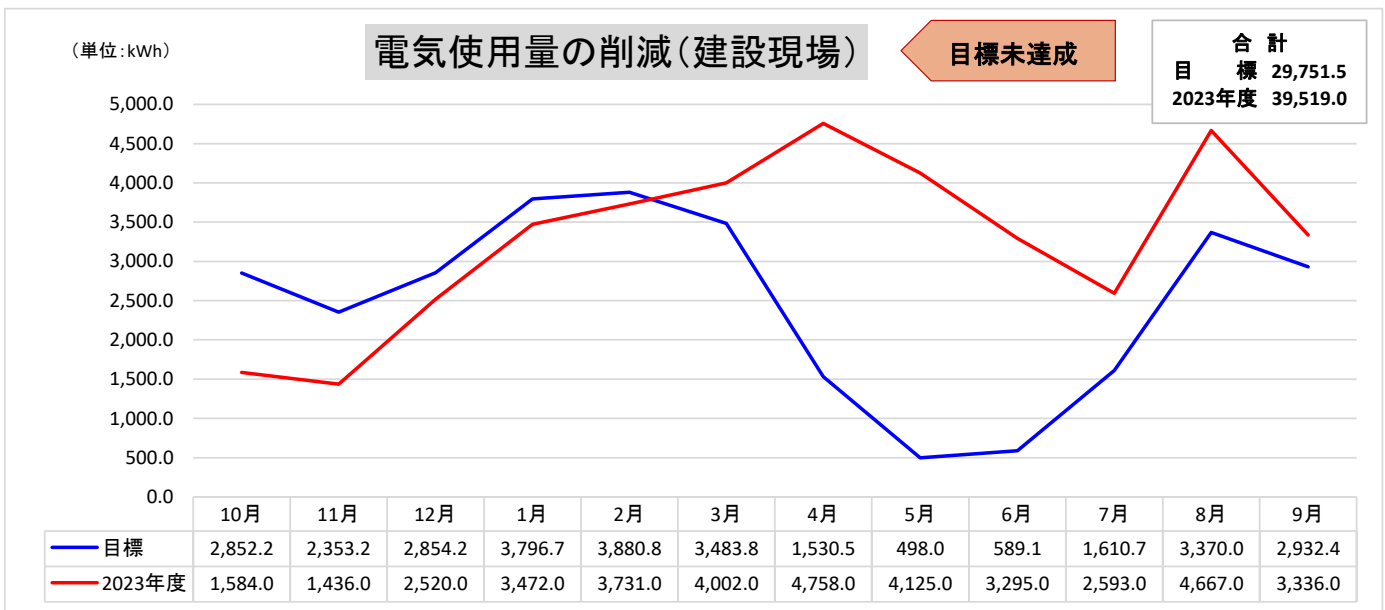
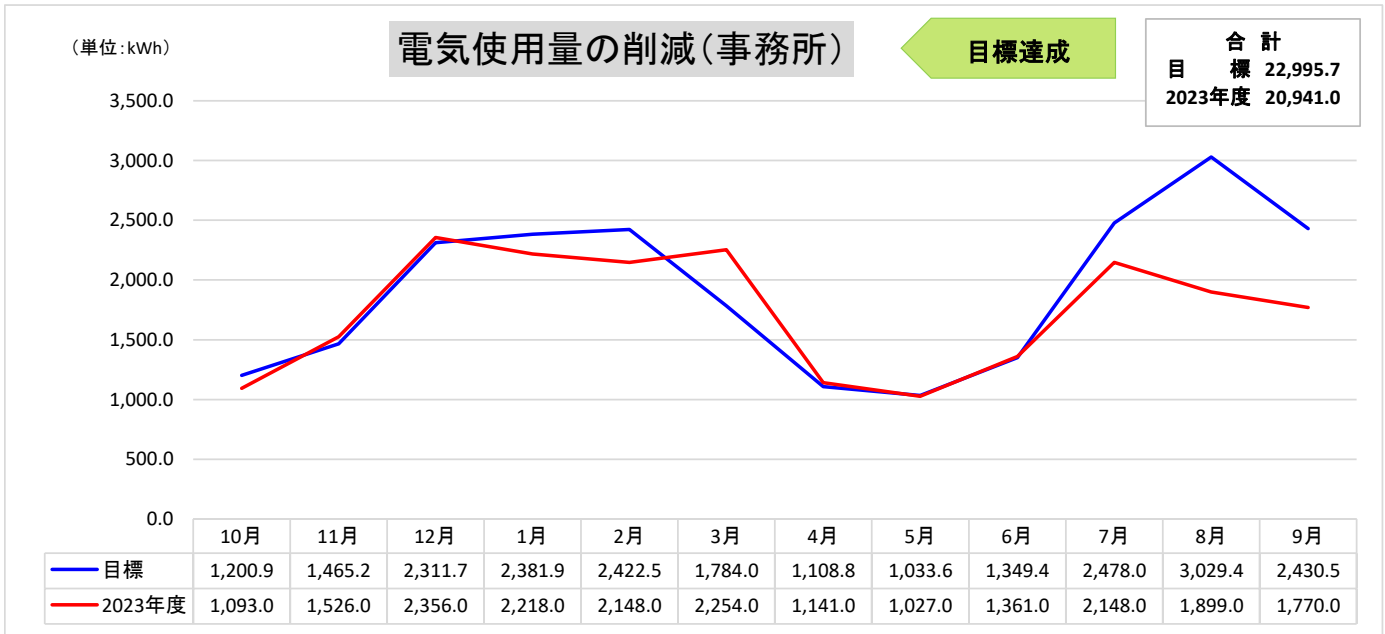
注) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度(%)=目標÷実績×100、
増加を目指す場合は、達成度(%)=実績÷目標×100

注) 評価欄にて、○:達成(100%以上)、△:やや未達成(90%以上100%未満)、×:未達成(90%未満)

注) 建設リサイクルの推進向上 リサイクル率=再資源化量(376.56t)÷産廃発生量(385.39t)

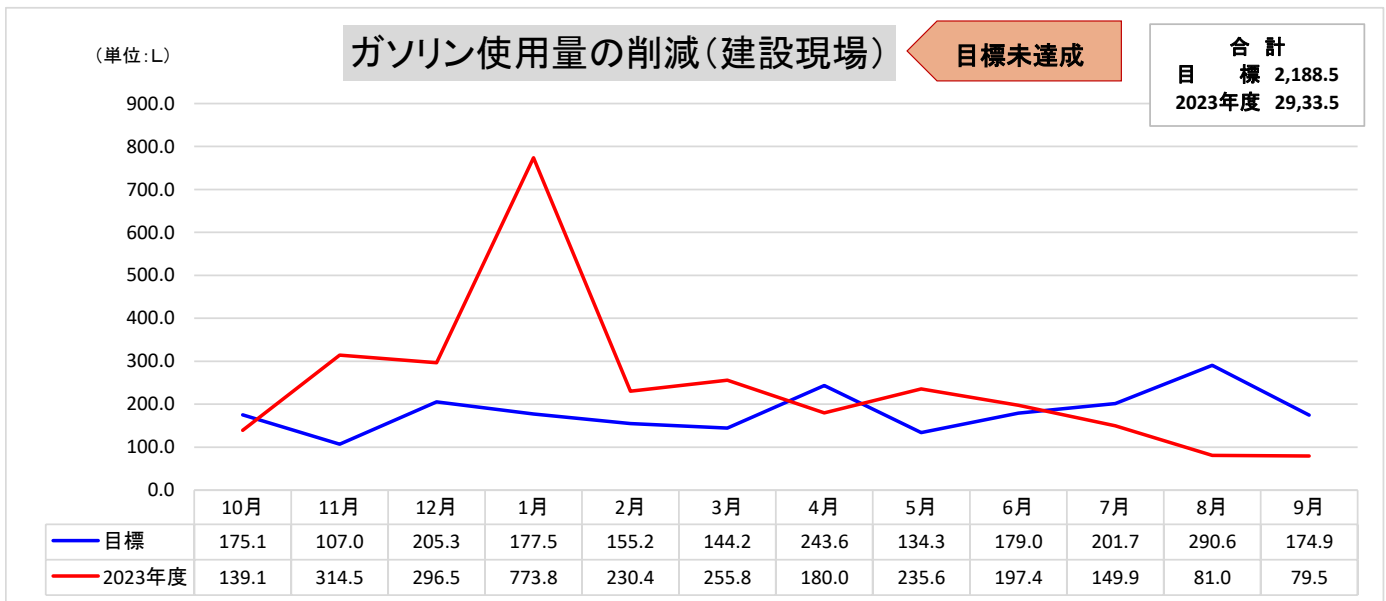
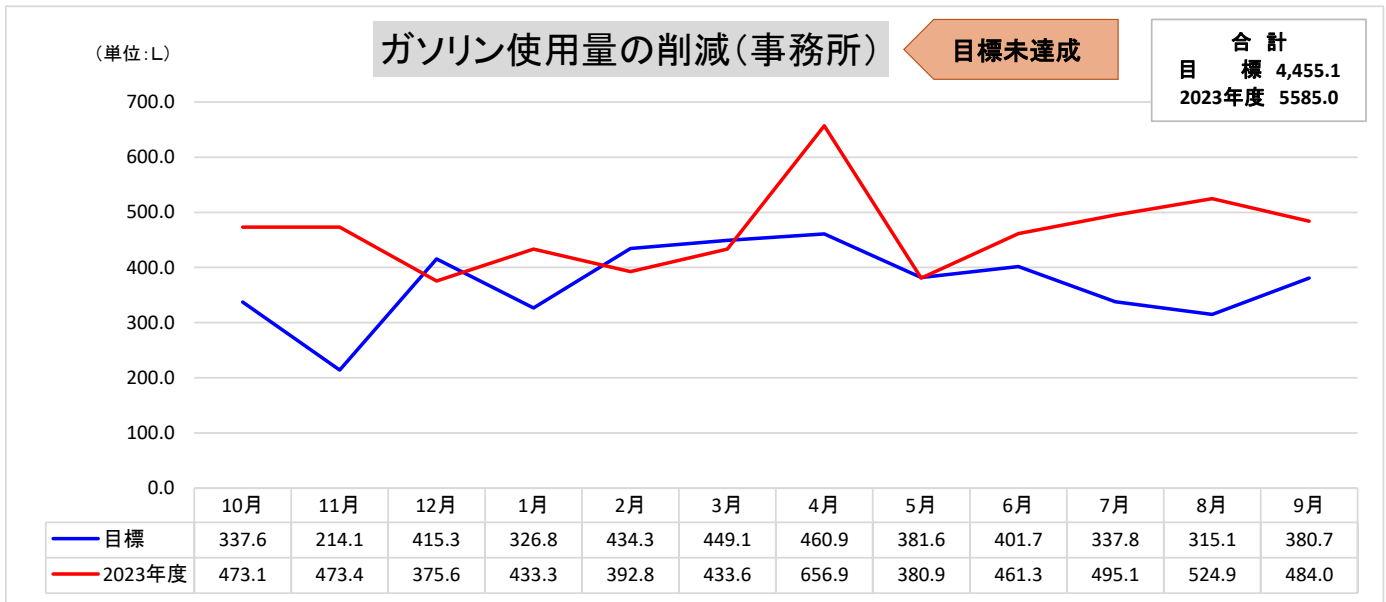
VI. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容





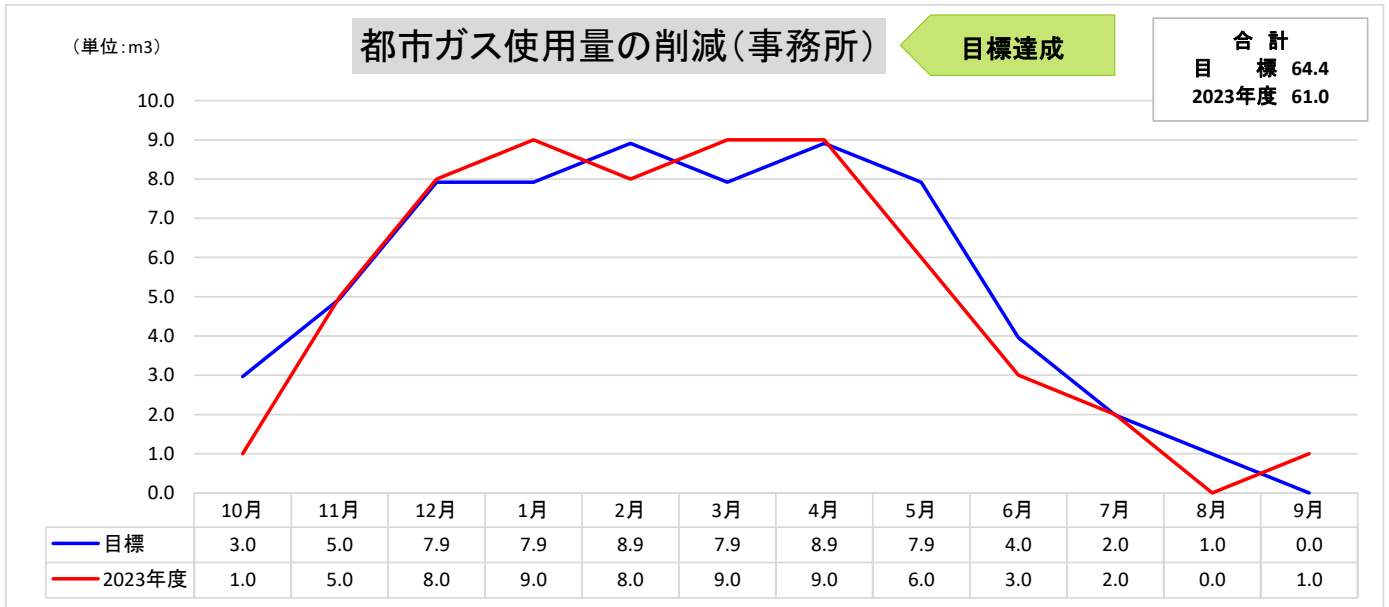
取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
事務所		<p>長引く寒さや夏の猛暑の影響により、エアコンの使用頻度は多かったものの、各自節電する意欲がみられたことに加え、今期、室外機3台、室内機4台を更新したことにより本社では目標達成ができた。引き続き節電の意識を高く持つようにする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div>
・空調温度の適正化	○	
・不要照明の消灯	◎	
・設備の空運転禁止	○	
・空調機の順次取替	○	
建設現場		<p>7～9月は「京屋ビル」「高砂町駅前M」「堺営業所」「日本紙運輸倉庫」の4現場で電力の使用があった。今期は合計5現場で電力の使用があったが、どの現場も不要な電力の使用は見られなかった。</p>
・不要照明の消灯	○	
・設備の空運転禁止	○	
・型枠施工時スラブ明取りパネル使用	×	
・仮設足場組立時、明取りシート張部分的使用	×	

達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった



取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
事務所		各自エコドライブを意識した走行を心掛けていたが、車を使用しなければならない状況が多かった。 公共交通機関の積極的な利用の推奨、燃費の悪い社有車の入替を検討し引き続き取組を実施する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div>
・不要なアイドリングストップ	○	
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	◎	
・公共交通機関の利用	◎	
・走行距離の管理	○	
建設現場		専門工事部の他、今期は7現場で車を使用。 遠方の為車を使用せざるを得ない現場があったが、車を使用する際は各自エコドライブを意識した運転を行っていた。また、可能な限り公共交通機関利用していた。
・不要なアイドリングストップ	○	
・急加速・急停車の抑制	○	
・空気圧、オイル等の点検	○	
・公共交通機関の利用	◎	
・走行距離の管理	○	

達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった



取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
事務所		3月や4月になっても寒さが緩和されず、湯沸かし器の温度が高めであったが、時間外は元栓を閉めるなど適正な使用が徹底されていたことが目標達成に繋がった。 次年度も取り組みを実施する。
・使用湯量の節減	×	
建設現場		都市ガスを使用した現場はなかった。
・給湯器の適切な利用	◎	

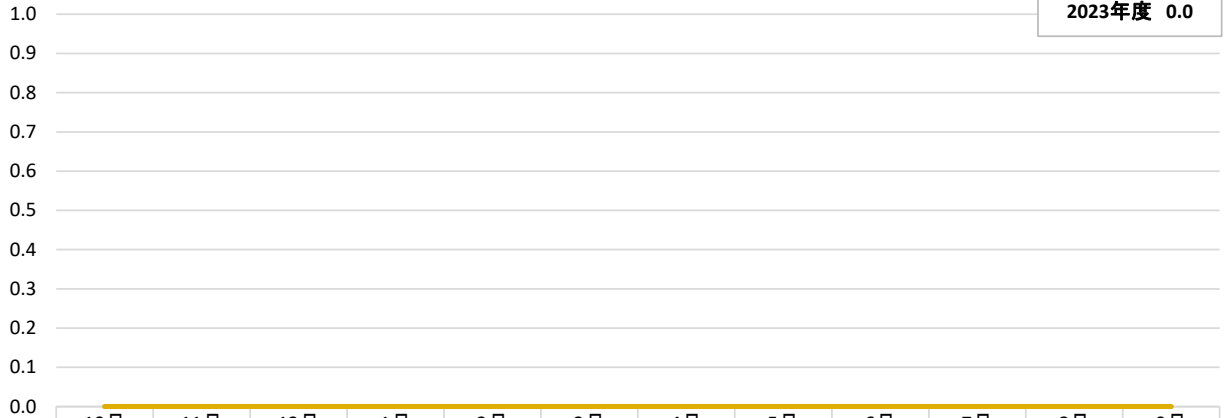
達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

(単位:L)

灯油使用量の削減(建設現場)

実態把握・省エネ励行

合計
基準年 0.0
2023年度 0.0



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
— 基準年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
— 2023年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
建設現場		灯油を使用した現場はなかった。
・室内温度の適正化	○	
・部屋解放の禁止	○	
・不在時点火の抑制	○	

(単位:L)

軽油使用量の削減(建設現場)

実態把握・省エネ励行

合計
基準年 0.0
2023年度 0.0



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
— 基準年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
— 2023年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
建設現場		軽油を使用した現場はなかった。
・発電機の使用時間を短縮	—	
・電気引込みが可能な場所での発電機の使用禁止	—	

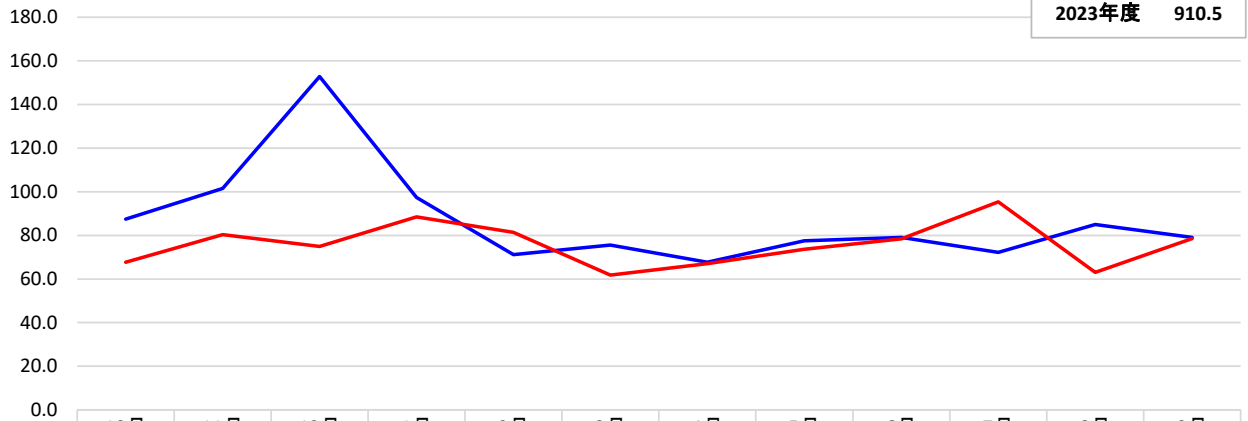
達成状況→ ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

(単位: Kg)


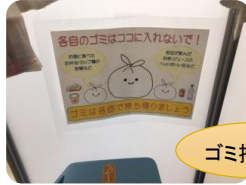
一般廃棄物の削減(事務所)

目標達成

合計
目標 1,046.4
2023年度 910.5



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
— 目標	87.5	101.5	152.8	97.4	71.1	75.5	67.7	77.5	79.1	72.2	85.0	79.0
— 2023年度	67.6	80.4	75.0	88.5	81.4	61.8	67.0	73.6	78.4	95.4	63.1	78.5

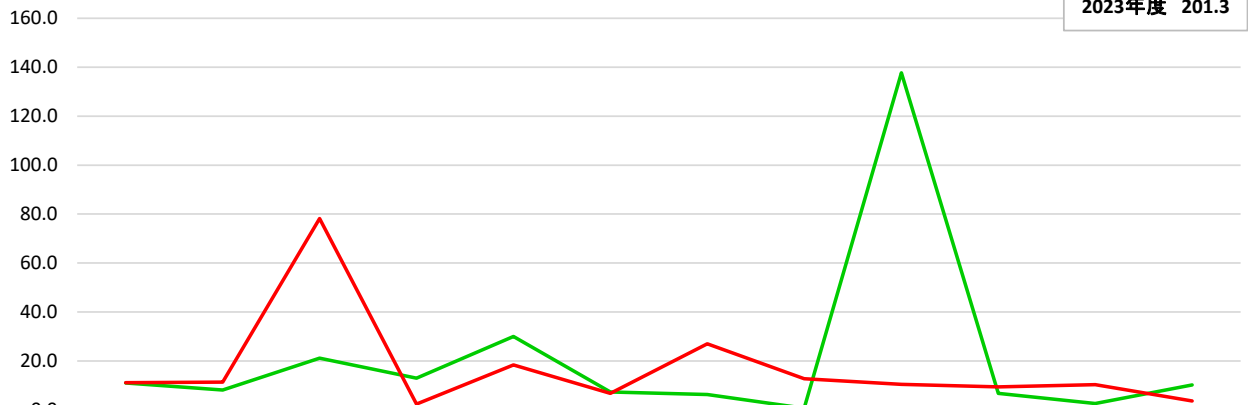
取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
・分別によるリサイクルの推進	○	分別は適正に行われていた。各自のごみは持ち帰るよう周知徹底ができていた。裏紙でも問題ない書類は裏紙を使用するよう各自で意識して行われていた。次年度も各自無駄がないよう意識して取組を実施する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>裏紙利用</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゴミ持ち帰り</p> </div> </div>
・ミスコピーの防止	◎	
・裏紙の使用	○	
・ペーパーレス化推進	△	

(単位: t)

産業廃棄物の削減(建設現場)

実態把握・適正管理

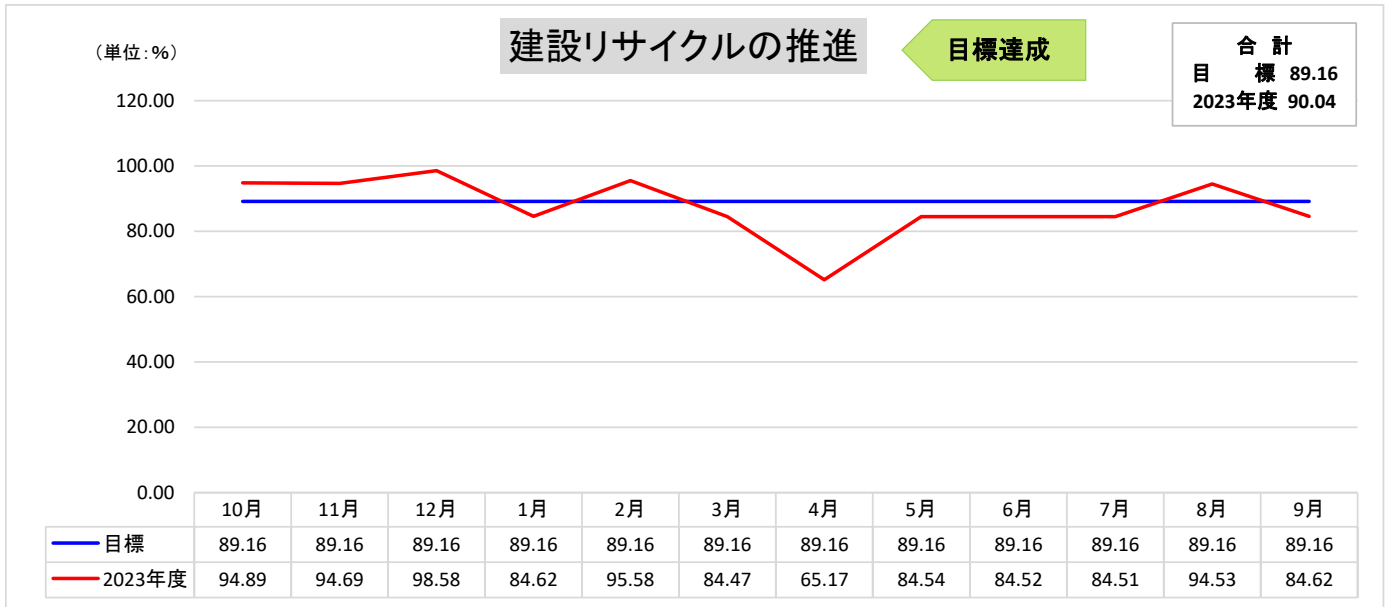
合計
基準年 254.4
2023年度 201.3



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
— 基準年	11.0	8.0	21.0	12.9	30.0	7.3	6.2	0.7	137.7	6.8	2.6	10.2
— 2023年度	11.0	11.3	78.2	2.3	18.3	6.8	27.0	12.7	10.4	9.4	10.2	3.6

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
・分別による最終処分量の削減	○	適正な管理ができていた。解体工事がなかったため排出量が抑えられた。
・仮設資材の再利用の推進	○	

達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった



取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
・分別による最終処分量の削減	○	解体工事はなかったが目標達成となった。各自のごみ持ち帰るよう周知徹底ができていた。次年度も取組を実施する。
・仮設資材の再利用の推進	○	


再生資源の利用促進

促進に努めた

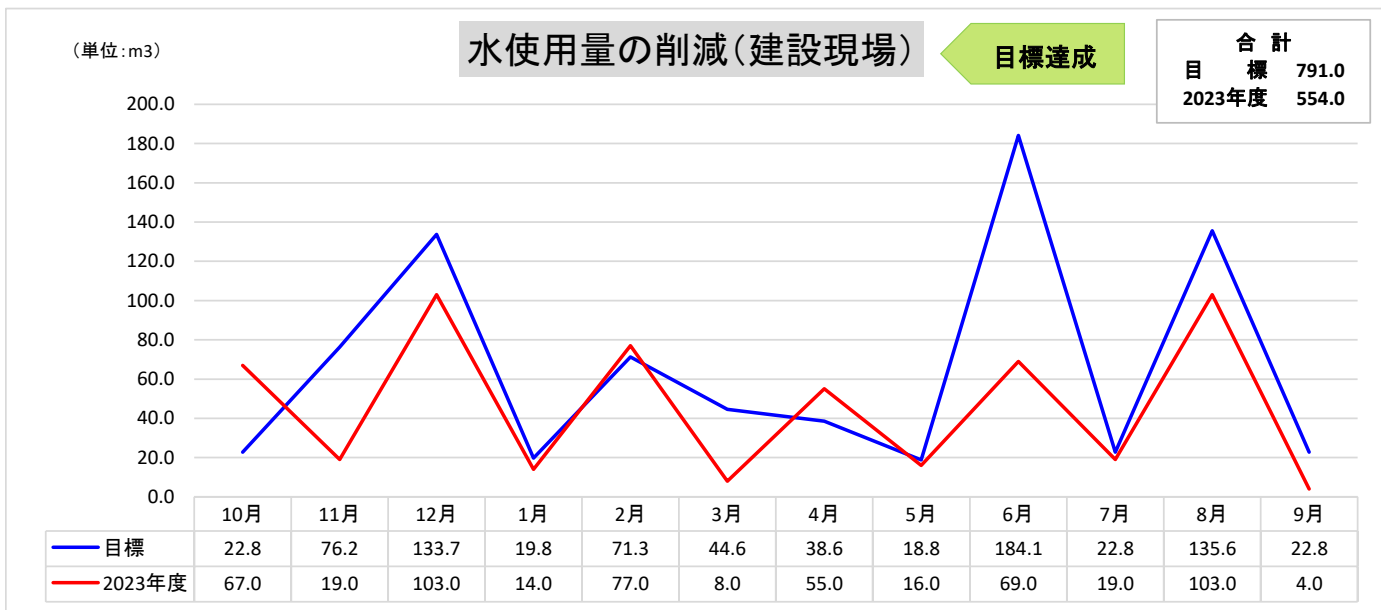
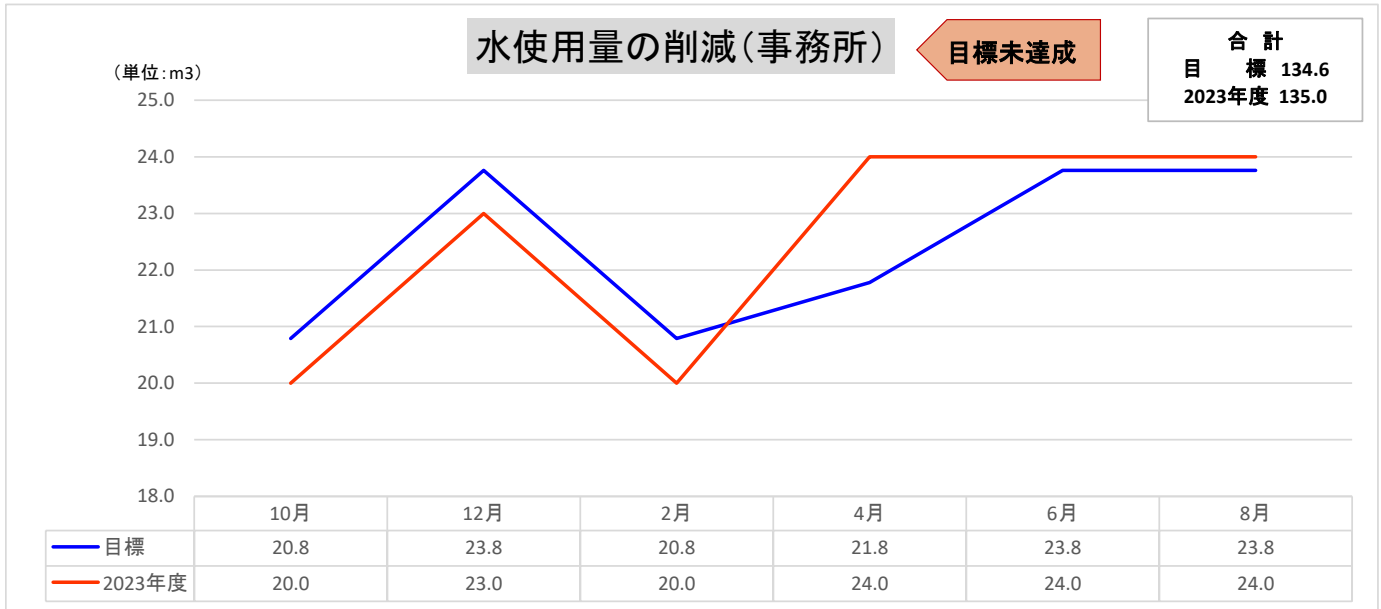
取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
・工事資材の再生材利用を協力業者へ依頼	○	3現場で再生砕石の利用がみられた。再生資源の利用が増えるよう次年度も促進に努力する。


環境に配慮した工法の開発と提案

積極な提案を行なった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
・分野別に環境に配慮した工法やノウハウなどを調査し、受注案件への適用検討、施主への提案を推進する。提案を行った場合は打合せ議事録や写真にて記録を残す。	○	<p>1現場で残土が出ない鋼管杭の提案及び実施があった。施主、設計者の間に位置する会社としてはなかなか実現は難しいが、達成手段の一つとして、環境に配慮した工法や資材のカタログを集め社内に誰でも閲覧できる棚を設置し、環境に配慮した施工を行う上での知識を全員で共有している。</p> <div style="text-align: center;">  <p>環境配慮 カタログ</p> </div>

達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった



取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
事務所		各自節水を心掛けていた。引き続き取組を実施する。 
・節水の周知徹底	◎	
・垂れ流し禁止	◎	
建設現場		
・節水の周知徹底	◎	
・垂れ流し禁止	○	現場数や施工内容により使用量は大幅に変動する。
・作業員の靴の汚れはトロ箱に溜めた水で落とすよう周知徹底	○	

達成状況 → ◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

注) 化学物質は使用していない

VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	収集運搬・処分業者との適正な契約、保管基準の遵守、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出、多量排出事業者の産業廃棄物処理計画・実施状況報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	石綿使用の有無の事前調査、調査結果の発注者への説明と現場掲示、特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守	遵守
騒音規制法(各市町村公害防止条例)	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法(各市町村公害防止条例)	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
消防法	消防設備の点検(消火器)	遵守
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の定期点検と記録、漏洩防止、廃棄時の適切な処理、該当機器設置有無の確認、発注者への書面による説明	遵守
家電リサイクル法	特定家電製品4品目の適正な処分	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。関係当局よりの違反等の指摘はありません。

VIII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

目標設定のための基準年度をポストコロナの2022年度としたのは妥当と考える。一方で、受注工事の大型化が進んでおり、完工高だけではなく、消費エネルギーについてもその波動が大きくなっている。今まで以上に単年度毎で比較することが難しくなっている。また、2023年度でいうと、岡山県、京都府宇治市、大阪府堺市、兵庫県高砂市と工事現場が遠隔地にあったので走行距離が増え、結果的にガソリンの消費量が増えた。比較が難しい以上は、各人に「なるべく公共交通機関を使用する」「省エネ運転を心掛ける」ということを心掛けてもらう、或いは事務局を通じて徹底してもらうという事と、業務の効率化によりエネルギー消費を減らす、という両面から取り組んでいく必要があると思う。

環境経営方針	■ 変更なし	□ 変更あり
環境経営目標・計画	■ 変更なし	□ 変更あり
実施体制	■ 変更なし	□ 変更あり

2024年12月20日
代表取締役社長 日下 雅人

IX. 環境活動の紹介



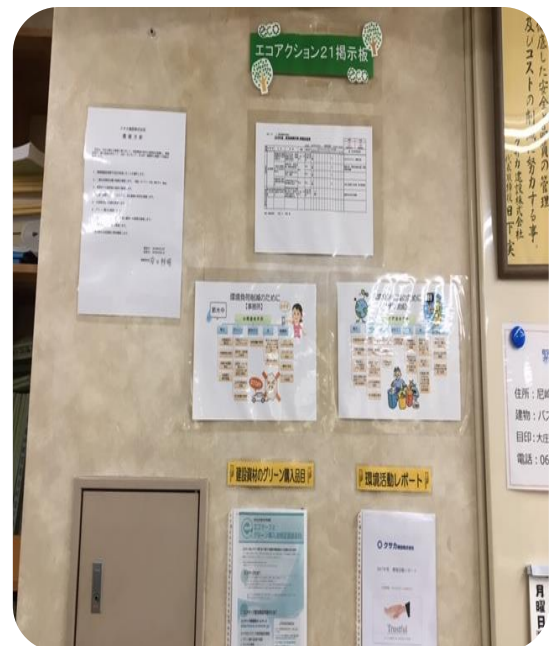
感謝状授与



事務所1階・2階空調機入替
(室内機3台・室外機2台)
2024年7月19日実施



環境教育訓練



エコアクション21掲示版